2013●図書館展示 10 月

童謡・唱歌の世界

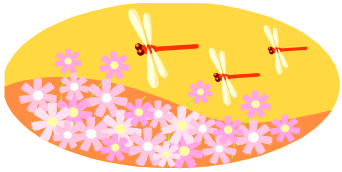
企画：国立音楽大学附属図書館
　　閲覧参考部ガイダンス担当

期間：2013 年 10 月 1 日～ 11 月 9 日

場所：図書館ブラウジング・ルーム
　　＆　ＡＶ資料室

童謡・唱歌の世界

めまぐるしく変化する時代の中で、世代を超えて歌い継がれる歌があります。みんなが知っていて、誰もが歌ったあの歌この歌。今回の展示では、いつまでも色あせることのない童謡・唱歌の世界を当館所蔵資料とともにご紹介します。



Index

唱歌と童謡・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
主な唱歌・教科書年表
　　～検定制導入まで～・・・・・・・・・・ 5
童謡・唱歌の探し方・・・・・・・・・・・・・ 8
展示資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　パネル
　雑誌／図書／楽譜／録音資料
　“荒城の月”楽譜諸版
　唱歌教材等に収載された“菩提樹”
　貴重書
　AV 資料室掲示

企画・構成●国立音楽大学附属図書館閲覧参考部ガイダンス担当

唱歌と童謡

●唱歌

「教材用歌曲、あるいは歌うこと。1872（明治 5）年の学制発布により、学校における音楽教育が開始された。小学校では歌を歌うこと、中学校では楽器を弾くことを教育の中心におこうとし、教科名をそれぞれ〈唱歌〉〈器楽〉とした。そこで教科名としても〈唱歌〉という語が用いられるようになった。

古くから楽器のけいこや暗譜に用いられるソルミゼーションのことを〈唱歌（しょうが）〉といい、楽器の旋律やリズム、奏法を「チントンシャン」（三味線）、「コーロリンシャン」（箏）、「テンテンテンツク」（締太鼓）等擬声語を用いて唱えながら練習をしたのである。けいこ用の歌という意味からも、歌唱教材を〈唱歌〉とよんだのは当を得ているといえよう。1941(昭和 16)年の国民学校令によって〈唱歌科〉が〈芸能科音楽〉となり、教科名としての〈唱歌〉は用いられなくなった。そして歌唱教材のみを意味するようになった。

〈唱歌科〉では徳性の涵養をその目的にかかげ、ストレートに道徳、しつけを歌った〈唱歌〉も多く、さらには軍歌も教材として盛んに用いられた。また≪鉄道唱歌≫（明治 33 年）等地理教育等、他教科の教育内容を歌で覚えさせようとする〈唱歌〉も多く作られた。このように音楽を教育するという以上に、他の目的を付加されていたために、本来歌唱教材を意味していた〈唱歌〉のイメージが固定され、現在では、国民学校令以前の唱歌科時代の歌唱教材のみをさすのが普通である。文部省唱歌は、その代表的なもの。」（後略）（『音楽教育用語事典（小学校音楽教育講座 10）』p.99~101（繁下和雄/吉田恵子）より。

●童謡の誕生

大正時代は、日清･日露戦争で得た領土と賠償金、さらに第一次世界大戦での戦勝国の仲間入りをしたことによる経済的豊かさを背景に「大正デモクラシー」といわれる、自由主義･民主主義の思潮が開花した時代であった。

音楽教育の世界でも、夏目漱石の門下生で児童文学者であった鈴木三重吉が、「子どもたちにもっと自由に、情緒豊かな音楽を与えたい」と、大正 7 年（1918）7 月に児童雑誌『赤い鳥』を創刊し、童話と童謡を中心とする初めての文学運動を展開した。

ここから本格的な童謡作品が生みだされ、日本の児童文学･児童文化史上に画期的な役割を果たすことになった。

●鈴木三重吉と「赤い鳥」童謡運動

『赤い鳥』創刊に際して、鈴木三重吉は抱負を「童話と童謡を創作する最初の文学的運動」と述べ、この雑誌の出版に彼の全勢力を打ち込んだ。

『赤い鳥』は昭和 4 年 (1929) 4 月から一時休刊のあと、昭和 6 年(1931)年 1 月復刊したが、昭和 11 年 (1936) 8 月彼の他界によってこの事業も終わった。その間に全 196 冊発行され、この運動に賛同して協力した作家･詩人には泉鏡花、小山内薫、徳田秋声、高浜虚子、野上豊一郎、野上弥生子、有島生馬、芥川龍之介、北原白秋、島崎藤村、森鴎外、森田草平、菊池寛、谷崎潤一郎、有島武郎、佐藤春夫、三木露風、西条八十、作曲家では山田耕筰、近衛秀麿、成田為三

など、当時の第一線の人物が名を連ねている。

『赤い鳥』の大きな功績としては、児童劇の開拓、芸術的童謡曲譜の作成があり、北原白秋、西条八十の童謡、芥川龍之介、菊池寛、宇野浩二、佐藤春夫その他の童話、久保田万太郎の児童劇、成田為三、山田耕筰らの童謡曲譜が生まれた。また三重吉の綴方（つづりかた）指導、白秋の児童自由詩の開拓、山本鼎（かなえ）の自由画の運動等、児童自身による表現の改革も『赤い鳥』誌上で行われ、児童教育の面からも大きな業績を残した。

●童謡運動の評価

雑誌『赤い鳥』の詩人たちの、唱歌に対する批判は「歌詞が文語体で難解である」とか、「道徳的教化を目的とするか、いたずらに古い花鳥風月を歌うばかりで、子どもの現実の生活やそこから生じる感情などを無視している」など、主に歌詞に集中し、それは 1900（明治 33）年ごろの田村虎蔵や東基吉らの主張とほとんど変わらず、特に目新しいものではなかった。

又、音楽の面からみても童謡と唱歌にそれほど大きな違いはなく、唱歌と童謡の作風の違いは、曲種の違いというより童謡詩人に協力した作曲家たちと、それ以前の唱歌作曲者たちの世代の違いからくる作風の違いであると見られる。童謡の詞は子どもに理解しやすい口語体、会話体の詞であり、擬音語を多用することに目立った特徴があるが、童謡に唱歌とは違った音楽的特徴を求めるなら、童謡はより長い形式、転調、短調、都節などの日本音階を積極的に使用したということであろう。

「童謡運動は、その批判として出発した文部省唱歌に対しても、根本的な反省を迫ることができなかった。その課題も、いぜんとして現在われわれの前に残されている。しかし、その後のレコード童謡と軍国童謡が氾濫した時代を考えると、童謡運動の生んだ童謡が日本の子どもたちの歌をどんなにゆたかにしてきたか、はかり知れないものがあったことも痛感する。童謡運動はその本来の目的にはおよばなかったにせよ、その目標に近づくための大きな一歩を歴史に残したのではなかろうか」（小島美子『日本童謡音楽史』請求記号●J103-456 むすびより）

●童謡第一号“かなりや”

『赤い鳥』創刊からしばらくは、歌のメロディは記載されなかったが、読者の希望もあって創刊翌年の大正 8 年(1919) 5 月号に初めて西条八十作詞、成田為三作曲 “かなりや”の楽譜が登場した。この曲はその後、ドイツ留学から帰国した山田耕筰の作品などと共に、帝劇で開催された「『赤い鳥』出版一周年記念音楽会」で少女合唱によって演奏され、大評判となった。

楽譜は『赤い鳥』第 2 巻第 5 号（大正 8 年 5 月 1 日発行）の冒頭に掲載されている。その半年前の第 1 巻第 5 号（大正 7 年 11 月 1 日発行）には歌詞だけ掲載され、その詩のテーマは[かなりあ]となっている。西条八十は、はじめに[かなりあ]としていた題名を、実際の発音はアよりヤの方が近いとして、歌の詞として再発表の際に“かなりや”と書き直したと思われる。

“かなりや”の素晴らしさは、八十が 3 番までの歌詞と 4 番の歌詞の雰囲気を変えたことにあるといわれている。成田も八十の気持ちを汲んでメロディを大胆に変えた。それが唱歌とは明らかに違う、大正デモクラシーの「自由と豊かさ」を感じさせた。

●童謡雑誌の興隆～『金の船』ほか～

この当時、『赤い鳥』の反響が『金の船』、『コドモノクニ』、『少女号』、『童話』、『樫の実』などの童謡・童話雑誌を続々と登場させ、同種の雑誌は大正 10 年代の最盛期には 12 誌を数えたといわれる。大正デモクラシーを、子供のための文芸･文化･教育の分野において民間の側から担ったのは、これらの雑誌であった。

童謡雑誌『金の船』（4 巻 6 号 [大 11.6]から『金の星』と誌名変遷）は斎藤佐次郎が、鈴木三重吉の『赤い鳥』が目指す童謡運動の芸術至上主義に対抗して、大正 8 年 (1919) 11 月から昭和 4 年 (1929) 6 月までの約 9 年半の間に発行した、主に子供読者を対象としたものである。

創刊号の社告のなかで、斎藤佐次郎は、「吾々の雑誌は何処までも子供のものであらしめたい」と抱負を述べている。『金の船』には野口雨情や若山牧水の童謡、本居長世･中山晋平･藤井清水の童謡作曲、沖野岩三郎を中心とする童話や読み物、岡本帰一の童画などが採り入られた。

中でも野口雨情の情緒豊かな作品は数多く、“七つの子”“十五夜お月さん”“青い眼の人形”などは久しく愛唱歌として親しまれた。

とかく大衆的なもの、通俗的なものを俗悪として、一刀両断にしてしまう風潮があるためか、『金の船』は『赤い鳥』より一段低級に論じられがちであったが、多数のヒット曲を生み出している点からも、むしろ『赤い鳥』以上に功績があったという評価も見受けられる。

●童謡レコードと童謡歌手

童謡が初めてレコード化されたのは大正 8 年、佐々紅華のお伽歌劇「茶目子の一日」と大正 9 年作曲家成田為三の“かなりや”でニッポノホンレコードから発売された。童謡歌手による初めてのレコードは、作曲家本居長世の長女である本居みどりが吹き込んだ野口雨情作詞“十五夜お月さん”で、本居みどりが童謡歌手第1号といわれている。

レコードは当時、海外からの輸入盤と、義太夫、小唄、浪花節、薩摩琵琶など日本の伝統音楽に限られていた。松井須磨子が歌いヒットした流行歌“カチューシャの唄”は例外である。そうした中で“かなりや”は大ヒットをする。この成功は、『赤い鳥』の文学運動そのものにも大きなはずみをつけ、日本童謡運動史を語るうえで重要な歌の一つとなった。

又、本居みどりの妹の貴美子、若葉両名も童謡歌手としてニッポノホンレコードと昭和 3 年以降コロムビアレコードで歌っており、当時は童謡三人姉妹として有名であった。続いて大正 11 年には村山道子、久子姉妹が東京レコードで吹き込みを始めた。大正 13 年には平原寿恵子が童謡の名曲“叱られて”を東京レコードに吹き込んだ。

これら童謡歌手たちは、当時の子供たちの人気者であり、JOAK(NHK)のラジオ放送や実演のステージ、地方公演などで大活躍した。このようにレコードは、童謡や唱歌など児童音楽の全国への普及と発展に大きな力を発揮した。大正時代から昭和初期にかけて童謡黄金時代を迎えたが、その多くはレコード化されて当時の子供たちに歌い継がれた。昭和 10 年代は特にレコードが童謡を普及させたといっても過言ではない。

しかし、最初『赤い鳥』をはじめとする雑誌で流通していたものが、レコードで流通するようになると、文字通りの子供の流行歌となった。童謡はレコード流行歌になってさらに変質し、子供の感覚に媚びるようなきわどい旋律として批判されるようにもなった。

主な唱歌･教科書年表～検定制導入まで～

	書名 、(編著者)、 ≪収録曲名例≫ **特記事項**
明治 5 年(1872)	**学制発布**。「唱歌　当分之ヲ欠ク」
明治 6 年(1873)	唱歌／全 2 編**(～1880)**、≪出雲曲≫≪かる島ふり≫ 五線譜によらない唱歌教科書。地歌や箏歌によるもの
明治 12 年(1879)	**文部省内に音楽取調掛を創設。** 伊沢修二、音楽取調御用掛に任命
明治 14 年(1881)	小学唱歌集／初～第 3 編**(～1887)**、(文部省音楽取調掛･伊沢修二)、 ≪蛍の光≫≪蝶々≫ 我が国最初の音楽教科書。五線譜による唱歌教科書発刊
明治 20 年(1887)	小学運動会唱歌／全、≪小学校運動会唱歌≫
	幼稚園唱歌集／全、(文部省音楽取調掛編･伊沢修二)、≪キラキラ星≫≪ぶんぶんぶん≫
	幼稚唱歌集／全、≪三千余万≫≪むかしの昔≫
	家庭唱歌／第 1～4 集**(～1890)**、≪祝宴の歌≫≪雨滴≫
明治 21 年(1888)	唱歌の友**(～1890)**、≪抜刀隊の歌≫
	新撰小学唱歌集、≪学びの窓≫≪御国の守り≫
	明治唱歌／全 6 集、(大和田建樹、奥好義編)、≪別れの歌≫≪二月の海路≫
明治 22 年(1889)	家庭唱歌之友、≪軍歌≫
	唱歌萃錦／第 1～2 集**(～1890)**、(奥好義編)、≪国の基≫≪愛国≫
	新編唱歌集／初編、≪静女≫≪雪≫≪宇治の里≫
	中等唱歌集、(東京音楽学校著)、≪君が代≫≪紀元節≫≪火砲の雷≫ 我が国最初の中学校音楽教科書
明治 23 年(1890)	学校歌曲集／2 編、≪花月≫ **「教育勅語」発布**。教科書検定制度の実施
	小学適用唱歌集／第 1 集、≪進撃の歌≫
明治 24 年(1891)	国民唱歌集、(小山作之助編)、≪観兵式の歌≫≪敵は幾万≫
	新定唱歌集、≪露≫≪なでしこ≫
	新編唱歌集／2 巻、≪皇国の四季≫≪海軍の歌≫
明治 25 年(1892)	尋常科高等科小学唱歌／巻下、≪蒸汽車≫
	大祭祝日用唱歌集、≪君が代≫
	幼稚園唱歌、≪小虫≫
明治 26 年(1893)	小学唱歌／全 6 巻、(伊沢修二編)、≪からす≫≪手鞠歌≫≪うさぎ≫
	祝日大祭日儀式唱歌、≪君が代≫≪紀元節≫
明治 27 年(1894)	銀婚式奉祝唱歌、≪友鶴≫
	歴史唱歌、≪磯辺の波≫≪ゆかりの色≫
明治 28 年(1895)	明治唱歌抜粋中等唱歌、≪朝雲雀≫
	明治唱歌抜粋小学唱歌、(大和田建樹、奥好義共編)
明治 29 年(1896)	学校必用唱歌集／全、≪同窓会≫
	新編教育唱歌集／全 8 集、≪お月さま≫≪小川≫≪港≫

明治 30 年(1897)	国教唱歌集／上～下巻、〔小山作之助編〕、≪家の風≫
明治 33 年(1900)	教科適用幼年唱歌／全**(～1902)**、〔納所弁次郎、田村虎蔵共編〕、≪金太郎≫ 言文一致唱歌
	女学唱歌／全**(～1906)**、≪秋漁≫≪たのし我が家≫≪秋のあわれ≫
	新撰遊戯唱歌、≪回れよ子供≫
	地理歴史鉄道唱歌／第 1 集、〔大和田建樹作歌〕、≪鉄道唱歌≫
明治 34 年(1901)	修身教典唱歌／尋常科第 1 学年／上巻、〔松平好房編〕
	春夏秋冬散歩唱歌、≪散歩唱歌≫
	日本遊戯唱歌／全 7 編**(～1903)**、≪汽車≫≪時計≫
	幼稚園唱歌、〔滝廉太郎編〕、≪雪やこんこ≫≪鳩ぽっぽ≫≪かちかちやま≫
	中学唱歌、〔東京音楽学校著〕、≪荒城の月≫≪箱根八里≫
明治 35 年(1902)	唱歌教科書／全 4 冊、〔北村季晴[ほか]編〕、≪ワシントン≫
明治 36 年(1903)	**教科書の国定化**
明治 37 年(1904)	学校唱歌／全 2 集**(～1906)**、≪体操／兵操〔兵隊さんの体操〕≫
	教科統合少年唱歌／全**(～1905)**、≪憲法発令≫≪霜≫≪静けき夜≫
	国定小学読本唱歌集／尋常科　高等科、〔内田粂太郎[ほか]編〕、≪のあそび≫≪日光≫
明治 38 年(1905)	国定高等小学読本唱歌、≪富士登山≫
	国定読本唱歌楽譜と遊戯法／尋常科用　高等科用、≪コガワ≫≪勧学の歌≫
	国定読本唱歌遊戯教授書／尋常科　高等科、≪のあそび≫≪須磨明石≫
	尋常小学唱歌／第 1 集、〔佐々木吉三郎[ほか]編〕、≪一寸法師≫≪大こくさま≫
	東京地理教育電車唱歌、≪電車唱歌≫
明治 39 年(1906)	高等小学唱歌／全 8 集**(～1907)**、〔納所弁次郎、田村虎蔵共編〕、≪リンコルン≫≪紫式部≫
	尋常小学唱歌、≪日本武尊≫≪案山子≫
明治 40 年(1907)	お伽唱歌／全、≪お花見≫≪金魚≫≪小川の歌≫
	女子新唱歌／第 3 集、≪惜春帰≫
	小学唱歌初集、≪十八省地理歴史≫
	中等教育唱歌集、≪旅愁≫≪故郷の廃家≫
明治 42 年(1909)	女声唱歌、≪ローレライ≫≪菩提樹≫
	新撰唱歌集／3 編、≪白蘭花≫
明治 43 年(1910)	普通教育唱歌集、≪雁≫≪月≫≪時計≫
	尋常小学読本唱歌、〔文部省著〕、≪月≫≪我は海の子≫ 〈文部省唱歌〉の誕生
明治 44 年(1911)	尋常小学唱歌／全 6 冊**(～1914)**、〔文部省著作〕、≪日の丸の旗≫≪桃太郎≫
明治 45／大正 1 年(1912)	重編学校唱歌／全 6 集、≪竹馬≫≪売布≫
	幼年唱歌／全 10 集**(～1915)**＊「新作唱歌」に改題、〔吉丸一昌編〕、≪お玉じゃくし≫≪早春譜≫
大正　2 年(1913)	軍国民教育唱歌、≪尚武之精神≫
	中小学唱歌教科書、≪従軍≫
大正　3 年(1914)	最新唱歌集、≪愛国≫≪国家≫≪勧学≫

	最新中等音楽教科書、≪フランス革命歌ラ･マルセイエーズ≫
	新編唱歌集／全、≪ひらいたひらいた≫
大正　4 年(1915)	大正幼年唱歌／全 12 集**(〜1918)**、(小松耕輔、簗田貞、葛原しげる共編)、≪電車≫≪あられ≫
	公学校唱歌集、≪なわとび≫≪こだま≫
大正　5 年(1916)	大正幼年唱歌、≪電車≫≪菊≫
	通俗唱歌集、≪うぐいす≫≪美しき天然≫
大正　7 年(1918)	**「赤い鳥」創刊**
大正　8 年(1919)	大正少年唱歌／全 12 集**(〜1929)**、(小松耕輔、簗田貞、葛原しげる共編)、≪とんび≫
大正　9 年(1920)	普通学校唱歌書、≪学校≫≪釜山港≫
大正 11 年(1922)	最新中等唱歌集、≪望郷歌≫≪学友≫≪運動歌≫
大正 12 年(1923)	小学校公学校唱歌教材集、≪新高山≫≪淡水河≫
昭和　7 年(1932)	初等唱歌、≪水車≫≪五月雨≫
	新訂尋常小学唱歌／全 6 冊、(文部省著作)、≪ポプラ≫≪牧場の朝≫≪スキーの歌≫
昭和 10 年(1935)	新訂高等小学唱歌／第 1〜3 学年(男子用･女子用)**(〜1938)**、(文部省著作)、≪太平洋≫≪月見草≫≪渡り鳥≫
昭和 14 年(1939)	初等唱歌／全 6 冊**(〜1941)**、≪シロ≫≪てつかぶと≫≪軍旗≫
昭和 16 年(1941)	**「小学校令改正」発令(別名：国民学校令)**。教科名：「唱歌」から「音楽」へ
	ウタノホン／上、(文部省著作)、≪ホタルコイ≫≪ウミ≫≪オウマ≫ うたのほん／下、(文部省著作)、≪さくらさくら≫≪たなばたさま≫≪うさぎ≫ はじめて絵が入り、カラーが使われた
昭和 17 年(1942)	初等科音楽／全 4 **(〜1943)**、(文部省著作)、≪野菊≫≪てまり歌≫≪若葉≫≪船出≫
昭和 19 年(1944)	高等科音楽／1(男子用･女子用)、≪小楠公の母≫≪海ゆかば≫≪君が代≫
昭和 22 年(1947)	1 ねんせいのおんがく〜6 年生の音楽、(文部省著)、≪はな≫≪ちょうちょう≫ 最後の文部省編纂音楽教科書、以後は検定制

参考：

･『なつかしの音楽教科書』●J99-150
･「文部省唱歌集成　解説･写真集」●XD56746-56765 解説
･「原典による近代唱歌集成　解説･論文･索引」●XD43824
･林淑姫「楽譜の風景―音楽の明治･大正･昭和―」『国立国会図書館月報』 628/629 号(2013.7/8) ほか

童謡･唱歌の探し方

唱歌や童謡は、教科書に掲載されていることが多く、OPAC では曲名からは探せないことが多い。いろいろなツールを、収録範囲に注意しながら確認し、探していく。

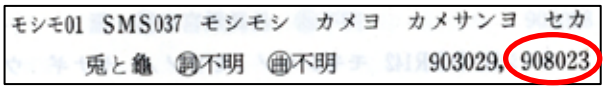
●曲を調べるには

1. 明治期の出版物に掲載された唱歌を探す

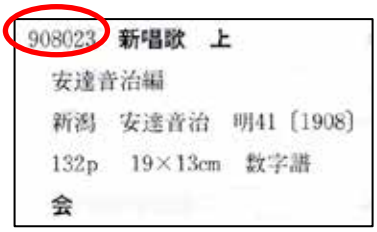
本学の音楽研究所音楽教育研究部門で作成された、「唱歌索引」を使う。
明治期に出版された唱歌教材に掲載された約 15,000 曲を、その曲名と歌い出しから調べることができる。

唱歌索引 (明治編)　1. 曲名･歌詞索引
　国立音楽大学音楽研究所年報. 1984, 第 5 集別冊.
　請求記号●PB102F　5B
　　曲名または歌詞の歌い出しから、作詞者、作曲者、旋律番号、書名番号 (掲載資料を示す番号) を調べることができる。
唱歌教材目録 (明治編)
　国立音楽大学音楽研究所年報. 1980, 第 4 集, p. 61-218.
　請求記号●PB102F　4
　　「唱歌索引」の書名番号順に、明治期に発行された教材の詳細が掲載されている。

手順:1) 曲名または歌い出しから「唱歌索引」を調べ、書名番号を確認する。
　歌い出し:モシモシカメヨカメサンヨ　→書名番号:908023　ほか



2) 書名番号で「唱歌教材目録」を調べ、掲載された資料の名前や出版社などを確認する。
　書名番号:908023→安達音治編 『新唱歌　上』 新潟, 安達音治, 明治 41(1908)



※会＝国立国会図書館所蔵

3) 教材の名前や出版社で、所蔵している図書館を調べる。
　当館所蔵は OPAC、日本の大学図書館の所蔵は CiNiiBooks を、国立国会図書館については NDL-OPAC を検索する。
　なお、このような古い資料は、国立国会図書館の近代デジタルライブラリー(http://kindai.ndl.go.jp/)でインターネットに公開されている場合もある。
　この『新唱歌　上』は公開されていたので、画面上で紙面を見ることができた。

2. 大正･昭和前期(1945 年まで)の出版物に掲載された童謡･唱歌を探す

当館ホームページにあるデータベース「童謡･唱歌索引」を使う。

大正･昭和前期（1945 年まで）に出版された当館所蔵資料の掲載曲を、作曲者、作詞者、歌詞の歌い出し、インチピットなど、いろいろな項目で検索することができる。

結果は当館 WebOPAC にリンクしており、掲載資料の請求記号や貸出状況もすぐにわかる。

国立音楽大学附属図書館　童謡･唱歌索引

http://www.lib.kunitachi.ac.jp/collection/shoka/shoka.htm

歌い出しが「ウサギオイシ」の曲を探した例：

3. 1949 年から 2009 年までの、教科書掲載作品を探す

『音楽教科書掲載作品 10000』(日外アソシエーツ, 2011)　請求記号●X-087/U

1949 (昭和 24 年) ～2009 (平成 21 年) までを収録している。

作品の作詞者、作曲者、出典とされる唱歌集名などが見出しになっている。

作品名索引はあるが、歌詞やインチピットからは探せない。

見つかった資料が当館に所蔵しているかは、OPAC で資料のタイトルなどで調べる。

※参考資料

南部好江, 松浦淳子. 国立音楽大学附属図書館「童謡･唱歌索引データベース」について (特集:図書館サイトに付加価値を(2)). 専門図書館. 2008, no. 231, p. 16-21.
請求記号●P1412　231

童謡･唱歌 (国際子ども図書館)　(国立国会図書館リサーチナビ)
http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-204.php (参照 2013-9-26)

唱歌･童謡について調べる　(埼玉県立久喜図書館　調べ方案内　Milestone　No.14)
(国立国会図書館レファレンス共同データベース)
http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=man_view&id=2000003359 (参照 2013-9-26)

●当館所蔵資料を探すには

1. 特定の曲を探すとき

曲名から OPAC を直接探すと、小さい曲では見つからないことがある。できるだけ、「●曲を調べるには」の方法で掲載資料を確認し、その資料名で OPAC を探したほうがよい。

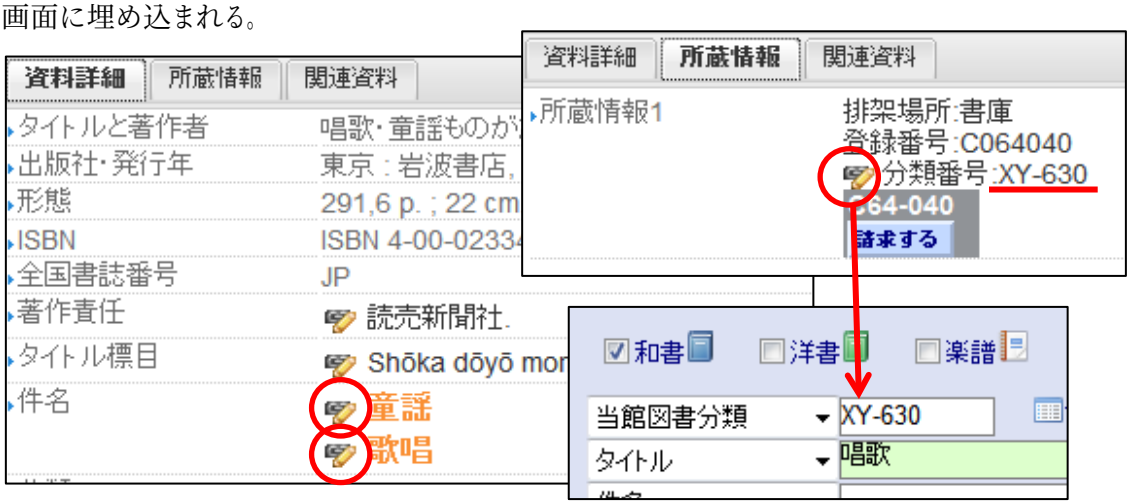
直接探すときは、その曲名を「タイトル」に入れてフレーズ検索する。結果が多すぎるときは、作曲者名を「人名･団体名」に入れて掛け合わせるが、小さい曲の場合は 0 件になってしまうことがある。作曲者名を「タイトル」に入れ、フレーズ検索にして掛け合わせると、目次に書かれた作曲者名を探すので、目的通りに限定できる場合がある。

例えば、上の探し方では 1 曲のみの楽譜 1 件が見つかるが、下の探し方に変えると歌曲集がいくつもでてくる。ただし上の方法で見つかった楽譜は出てこない、また関係ないものも混ざっているので、一つずつ内容曲を見ていく必要はある。

2. 全般的に探したいとき

1) はじめに、検索項目：タイトルで探した結果からたどっていく

「タイトル」に「童謡」または「唱歌」と入れ、フレーズ検索にして探す。結果の中に希望と近い内容の資料があれば、その詳細画面を開き、使われている分類番号や件名を確認する。その分類番号や件名で絞り込むと、より限定した結果が得られる。鉛筆の印をクリックするとその言葉が検索画面に埋め込まれる。



2) おすすめの検索項目と検索語

OPAC でジャンルから探す場合、資料によって使う検索項目が違う。図書は当館図書分類が確実だが、件名も使えることがある。楽譜と AV 資料は件名を使う。分類番号では探せない。

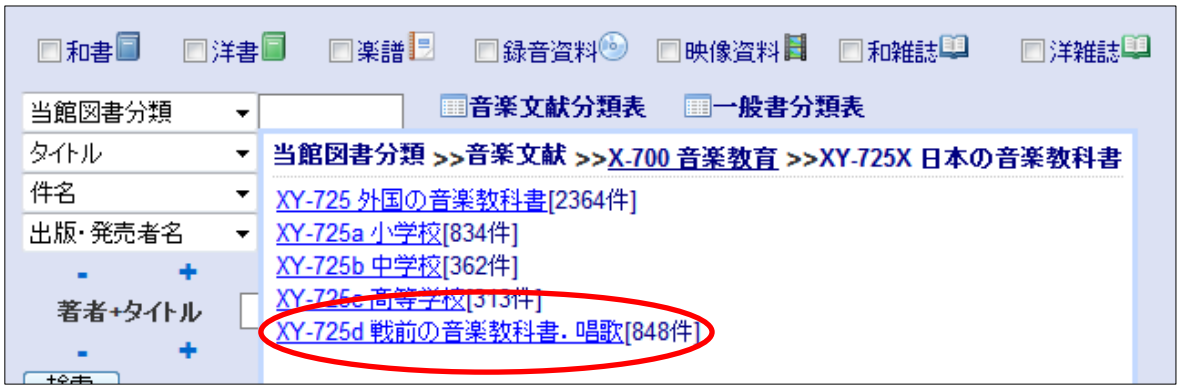
また、童謡唱歌の印刷物は、図書扱い、楽譜扱いの両方が考えられるので、できるだけ両方を試したほうがよい。探す対象とそれぞれのお勧めの検索項目、検索語は、以下の通り。

注意：これらを最初から一緒に入れるのではなく、まずは一つずつ試す。

探すもの		形態	OPAC での探し方
曲そのもの （楽譜・歌詞）	**童謡**	**楽譜**	件名：童謡
		図書 (主に歌詞)	当館図書分類： 909.21　（児童詩・童謡）　※文学としての童謡
	唱歌	楽譜	件名：学校音楽　※楽譜扱いの唱歌は少ない
		図書 (唱歌集など)	当館図書分類： XY-725d　（戦前の音楽教科書．唱歌）
研究書	**童謡** **唱歌**	**図書**	当館図書分類： XY-725d　（戦前の音楽教科書．唱歌）　※唱歌 XY-630　（日本歌曲）　※作曲者のある童謡が含まれる 909.21　（児童詩・童謡）　※文学としての童謡 XY-706　（日本の音楽教育、日本音楽の教育） X-603E　（児童発声、歌唱指導） 件名：童謡 件名：歌唱
音源	**童謡**	**AV 資料**	件名：童謡
	唱歌	**AV 資料**	件名：学校音楽

3) 唱歌集・唱歌に関する研究書を探す場合

当館図書分類を使う。検索項目を選ぶと番号が順に表示されていくので、「XY-725d 戦前の音楽教科書. 唱歌」を選ぶ。



この分類番号では、唱歌集そのものの図書と、唱歌について書かれた図書が探される。
古い唱歌集を見たいときは、出版年の昇順に並べ替えると、前に並ぶのでわかりやすい。

展示資料

パネル

「赤い鳥」 創刊号の表紙

出典:『赤い鳥』 CD-ROM 版 東京 : 大空社, 2008. 請求記号●P0751

大正時代の童話･童謡運動を代表する児童文芸雑誌。小説家鈴木三重吉により大正 7（1918）年 7 月に第 1 号が発刊された。この『赤い鳥』によって童謡と呼ばれる新しい歌謡が誕生した。創刊にあたって三重吉はまず、童話と童謡が芸術であることをねらいとし、当時の文壇の第一流の作家、詩人に執筆を呼びかけた。このことは童話、童謡の地位を向上させたばかりでなく、児童読物に新しい文体と内容を盛り込むこととともなった。

「赤い鳥」 標榜語（モットー）

出典:『赤い鳥』 CD-ROM 版 東京 : 大空社, 2008. 請求記号●P0751

三重吉は文中で「現在の子供が歌っている唱歌なぞも、芸術家の目から見ると、実に低級な愚なものばかりです」と痛烈に唱歌を批判している。童謡運動からの唱歌批判は歌詞に集中しており、唱歌の歌詞が文語体で難解であること、道徳的教化を目的としており、子どもの生活感情から離れていることなどが批判された。文章からは、子供たちに与えるべき童謡についての強い信念と理想にむかっての実践力というものが伝わってくる。

“かなりや”

出典:『赤い鳥』 CD-ROM 版 東京 : 大空社, 2008. 請求記号●P0751

「大正中期から昭和初期にかけて、北原白秋らが文部省唱歌を批判して作成し、運動によって普及させた子どもの歌」と定義される童謡の第一号。『赤い鳥』に初めて楽譜を掲載することになり、成田為三が依頼されて完成した曲が“かなりや”である。作詞は西条八十。『赤い鳥』第 1 巻第 5 号（大正 7 年 11 月1日発行）に歌詞が掲載され（[かなりあ]と表記）、その後、楽譜が第 2 巻第 5 号（大正 8 年 5 月 1 日発行）の冒頭に掲載された。

鈴木三重吉 すずき･みえきち 明治 15（1882）～昭和 11(1936)

出典:赤い鳥の会編『「赤い鳥」と鈴木三重吉』 請求記号●J53-625

作家、児童文学作家。広島市生れ。東京帝国大学英文科卒業。在学中夏目漱石の講義を受け、以来漱石に私淑した。ネオロマンチシズムの作家として文壇で活躍した。大正 7(1918)年、雑誌『赤い鳥』を主宰発行することによって、芸術的な童話、童謡を創作する初めての文学運動を起こした。北原白秋をはじめ多くの詩人、作家、画家、作曲家の協力を得、『赤い鳥』の運動は大きな盛上りをみせ、今日に残る記念すべき優れた童謡、童話を残した。

本居長世 もとおり･ながよ 明治 18（1885）～昭和 20(1945) と娘たち

出典:松浦良代『本居長世:日本童謡先駆者の生涯』 請求記号●J104-481

東京生まれ。本居宣長の正系。明治41(1908)年東京音楽学校卒。同校の邦楽調査掛の一員として長唄の調査研究を行う。“赤い靴”“青い目の人形”“七つの子”“めえめえ子山羊”“十五夜お月さん”“お山の大将”など、大正末期の童謡作曲によって知られている。これらの作品には近世邦楽的な要素がみられるほか、転調が多いなど複雑な手法も用いている。こうした童謡作品は彼の 3 人の娘たちによってステージで歌われ、童謡隆盛期の一角を担った。

山田耕筰 やまだ･こうさく 明治 19（1886）～昭和 40(1965)

出典:「山田耕筰作品全集 1（管弦楽曲 1）」 請求記号●A11-062

東京生まれ。東京音楽学校本科声楽科卒、ベルリン高等音楽学校で作曲を学ぶ。帰国後東京フィルハーモニー管弦楽団を組織して、その指揮者、大正 7～8 年(1918～19)にはカーネギーホールで自作管弦曲を演奏。我が国で初めて交響曲･交響詩を作曲し、日本語の語感を生かした近代リート曲や日本的な近代オペラをつくった。歌曲の面では大正 11(1922)年北原白秋と雑誌『詩と音楽』を創刊、詩と音楽の融合をはかり多数の芸術歌曲の傑作を生んだ。

中山晋平 なかやま･しんぺい　明治 20 (1887) ～昭和 27(1952)

出典:『中山晋平作曲目録･年譜』 請求記号●X-044/N167/N

長野県生まれ。長野師範学校卒、東京音楽学校ピアノ科卒、本居長世に師事。芸術座に参加し、大正 3 (1914)年上演の「復活」に際して作曲した“カチューシャの唄”に続き、“さすらいの唄”“ゴンドラの唄”などを発表。童謡では“雨降りお月さん”“毬と殿さま”“証城寺の狸囃子”など。歌謡曲･歌曲では“船頭小唄”“波浮の港”など。作風は非常に幅広く、いずれも日本的な情緒が漲っており、大正･昭和初期～中期の多くの人々に親しまれた。

弘田龍太郎 ひろた･りゅうたろう　明治 25 (1892) ～昭和 27(1952)

出典:『弘田龍太郎作品集 1』 請求記号●F2-794

高知県安芸郡土居村 (現安芸市) 生まれ。東京音楽学校器楽部卒、本居長世に師事。大正 9(1920)年同校助教授となった頃から童謡作品を多く書き、“叱られて” (清水かつら詩)、“浜千鳥” (鹿島鳴秋詩) など名作を生む。これらは当時流行の童謡の中でも風格の高いものであった。この時期の童謡作品には“雨” (北原白秋詩)、唱歌ふう様式の“雀の学校” (清水かつら詩)、“金魚の昼寝” (鹿島鳴秋詩)、“靴が鳴る” (清水かつら詩) などがある。

草川信 くさかわ･しん 明治 26 (1893) ～昭和 23 (1948)

出典:草川信『思い出の記』 請求記号●C57-806　表紙カバー絵 (草川によるもの)

長野市生まれ。東京音楽学校師範科卒。赤い鳥童謡運動から出発した童謡作曲家。作曲と管弦楽団の首席ヴァイオリン奏者としての活動の他、母校の教務嘱託、都内の学校教師などを務める。作品にはヴァイオリン曲、歌曲もあるが、最も知られているのは『赤い鳥』を中心に作った童謡である。“夕焼小焼”“ゆりかごの歌”“どこかで春が”“汽車ぽっぽ”“みどりのそよ風”などがよく歌われる。ヴァイオリン奏者らしい流れる旋律をもつ作品が多い。

成田為三 なりた･ためぞう　明治 26 (1893) ～昭和 20 (1945)

出典:浜辺の歌音楽館監修『浜辺の歌音楽館公式ガイドブック』 請求記号●J114-768

秋田県森吉町 (現北秋田市) 生まれ。秋田師範学校、東京音楽学校卒。大正 5 年(1916)より山田耕筰に師事し、同年“浜辺の歌”を作曲。翌年卒業、一時教師をしたあと本格的に作曲活動を始め、大正 8(1919)年雑誌『赤い鳥』に“かなりや” (西条八十詩) を発表した。以後、弘田龍太郎、草川信と『赤い鳥』の童謡作曲を続け、第一期童謡運動の中心的な作曲家となる。明治唱歌と違って芸術性の高いこれらの作品は、大人の間でも広く歌われた。

参考･松村直行『童謡･唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』 請求記号●J121-629
･『新音楽辞典．人名』 請求記号●X-020/S
･『日本文学事典』 請求記号●R910/N　　ほか

童謡･唱歌索引データベース

国立音楽大学附属図書館ホームページにある。大正･昭和前期 (1945 年まで) に出版された当館所蔵資料の掲載曲を、作曲者、作詞者、歌詞の歌い出し、インチピットなど、いろいろな項目で検索することができる。結果は当館 WebOPAC にリンクしており、掲載資料の請求記号や貸出状況もすぐにわかる。

国立音楽大学附属図書館　童謡･唱歌索引

http://www.lib.kunitachi.ac.jp/collection/shoka/shoka.htm

●雑誌

『赤い鳥』 複刻版

東京 : 日本近代文学館, 1979.
請求記号●P0751
1 巻 1 号 (大 7.7)-22 巻 3 号 (昭 4.3) ; 復刊 1 巻 1 号 (昭 6.1)-復刊 12 巻 3 号 (昭 11.10)

一部コピー版

『赤い鳥』 CD-ROM 版

東京 : 大空社, 2008.
請求記号●P0751
1 巻 1 号 (大 7.7)-22 巻 3 号 (昭 4.3) ; 復刊 1 巻 1 号 (昭 6.1)-復刊 12 巻 3 号 (昭 11.10)
原本の出版事項: 東京 : 赤い鳥社 , 1918.7-1936.10
底本: 日本近代文学館発行『赤い鳥』復刻版全 196 冊

『金の船』 複刻版

東京 : ほるぷ出版, 1983.
請求記号●P0884
1 巻 1 号 (大 8.11)-4 巻 5 号 (大 11)
原本の出版事項: 東京キンノツノ社

『金の星 / 金の船』 複刻版

東京 : ほるぷ出版, 1983.
請求記号●P0884
4 巻 6 号 (大 11.6)-10 巻 4 号 (昭 3.4)
原本の出版事項: 東京 : 金の船社

『おとぎの世界』 複刻版

東京 : 岩崎書店, 1984.
請求記号●P1290
1 巻 1 號 (大 8.4)-4 巻 11 號 (大 11.10)

●図書　＊これらの資料は本文作成に際して、引用･参考させていただきました。

日本児童文学学会編 『赤い鳥研究』

東京 :小峰書店, 1965.　　請求記号●J5-955

日本児童文学学会が、その研究紀要の第一輯として会員の研究を編集収録したもの。「『赤い鳥』の成立と発展」「鈴木三重吉論」ほか。

『復刻赤い鳥』 全 23 冊 (別冊付録共)

東京 : ほるぷ出版, 1969.　　請求記号●J35-891～J35-906

J35-893:『鸚鵡と時計』西條八十、J35-899:『救護隊』鈴木三重吉、J35-902:『小さな草と太陽』小川未明。「赤い鳥の本」として出版。北原白秋編集。採録作品数:200 篇。作者は与田準一、巽聖歌など 107 名。

清島利典『日本ミュージカル事始め : 佐々紅華と浅草オペレッタ』

東京 : 刊行社, 1982.　　請求記号●C34-913

大正時代、一世を風靡した浅草オペラの作曲家佐々紅華の女婿による著作。お伽歌劇「茶目子の一日」ほか、浅草オペラの脚本と楽譜も記載されている。

長田暁二 『童謡歌手からみた日本童謡史』

東京 : 大月書店, 1994.　　請求記号●C59-369

レコード会社のディレクターとして活躍した著者による、従来とは全く違った「新しい童謡史」。童謡を歌ったスター歌手のこと、多様化したメディアが童謡の発達普及に貢献したことなどを詳細に記述しているのが特色。

藤田圭雄 『日本童謡史』 全2巻 改訂版

東京 : あかね書房, 1984　　請求記号●第 1 巻 C39-682、第 2 巻 C39-683

「日本童謡史とはいいながら、これは通史ではない」序より。1 巻:『赤い鳥』『おとぎの世界』『金の船･金の星』『童話』、第 2 巻:『チチノキ』『コドモノクニ』『コドモアサヒ』についての研究を記録。

小島美子 『日本童謡音楽史 』

東京 : 第一書房, 2004.　　請求記号●J103-456

著者の論調は一貫して手厳しいが、「童謡運動はその本来の目的にはおよばなかったにせよ、そ

の目標に近づくための大きな一歩を歴史に残したのではなかろうか」と結んでいる。

山住正己『子どもの歌を語る：唱歌と童謡』

東京 :岩波書店, 1994.（岩波新書） 請求記号●J124-682

作曲家林光を中心につくられた「国歌を考える会」主催による「国について 歌について」コンサート第 2 部での著者の話が本書の元となっている。砂川闘争と“赤とんぼ”のエピソードは近隣でもあり印象的。

加藤理編『児童文化の原像と芸術教育』

鎌倉：港の人, 2011.（叢書児童文化の歴史；1） 請求記号●J121-252

「児童文化」について、誕生時の意味と概念を再確認し、その後の変遷から子どもにとって「児童文化」とはどのような存在だったのか、各時代において浮き彫りにすることで今日的な意味も確認しようと意図された。

金田一春彦『童謡・唱歌の世界』

東京 :教育出版, 1995. 請求記号●C60-192

小学校の時には唱歌が一番好きで、大人になってからはコーラスグループに所属していたというほどの歌好きを自認する著者による唱歌・童謡論。

澤崎眞彦,平澤元編著『なつかしの音楽教科書：あの小学校 6 年間がよみがえる』

東京：ヤマハミュージックメディア, 2003. 請求記号●J99-150

昭和 30 年発行、教育芸術社の小学校音楽教科書から選曲。当時の先生と生徒による授業日記や学校生活の思い出を掲載。口絵カラーと文章によってなつかしの歌のルーツも辿る。

松村直行『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ：明治・大正・昭和初中期』

大阪：和泉書院, 2011. 請求記号●J121-629

「最初の近代的な音楽（唱歌）教科書が生まれる前後の我が国の音楽環境に始まって、第二次世界大戦が終わる迄の「教育法規」をベースに、音楽（唱歌科）教科書及び楽書について、その変遷を見つめ直してみた」（はじめにより）

『原典による近代唱歌集成 解説・論文・索引』

東京：ビクターエンタテインメント, 2000
請求記号●XD43824 近代唱歌集成 XD43826～43855 の付属資料

構成：印影巻Ⅰ～Ⅴ（楽譜・CD）、楽譜巻Ⅰ～Ⅳ（楽譜・ＣＤ）、解説巻。解説巻の内容：「近代唱歌集成～曲目解説」「唱歌をめぐって～論文集」。写真図版も充実。唱歌年表、（曲名・うたいだし・人名）索引付き。

『赤い鳥小鳥』

東京：河合楽器製作所・出版事業部, 1990.（カワイの絵本童謡 / 友竹正則おはなし；1）
請求記号●C53-612

「昨今の憂慮すべき社会情勢のもとで子供達が将来に夢を持てる心の糧として、一助になることを願い企画した」（発刊にあたってより）。

秋山正美構成・解説『童謡・唱歌・童画 １００：子どもの昭和史』

東京：平凡社, 1993.（別冊太陽） 請求記号●C57-850

当時の雑誌・絵本等からのカラー図版はとても楽しく、また貴重でもある。「エッセイ」「歌碑一覧」も収録されている。

原田泰治（画）『原田泰治が描く日本の童謡・唱歌 １００ 選展』

〔出版地不明〕：朝日新聞社, c2000. 請求記号●C64-445

全国から公募して選ばれた日本の歌 100 曲に原田氏が歌のイメージに合わせ 100 枚の作品を描きあげた。

田中君子『唱歌・童謡の水彩画：やさしい四季のふるさと』

東京：日貿出版社, 2001. 請求記号●C65-626

唱歌と童謡には絵が似合う、ということで水彩絵を描いている人、これから始めようとしている人にも参考になるような「作例」「画材紹介」あり。

とだこうしろう作・絵『童謡画集＋CD』 全2巻

東京 : 戸田デザイン研究室, 2007.　　請求記号●第 1 巻 J124-063、第 2 巻 J124-064

かつて軍国少年であった戸田氏による「作･絵」。「私は懐古趣味で童謡画集をつくったのではなく、童謡のような共生の心を取り戻して欲しいと、燃える思いでこの本に取り組んだのである」（あとがきより）歌:川島由美、ピアノ:小原孝

『童謡のふるさと 石原和三郎の世界』

群馬 : 群馬県立土屋文明記念文学館, 2011　　請求記号●J125-410

第 73 回企画展「童謡のふるさと 石原和三郎の世界」の図録。石原和三郎は“うさぎとかめ”等の作詞で知られ、言文一致唱歌運動推進者の一人。

竹久夢二（画）大平直輝,西東敬三,加倉井幸子編『竹久夢二「セノオ楽譜」表紙画大全集』

東京 : 国書刊行会, 2009　　請求記号●J116-514

「竹久夢二生誕 125 年」にちなみ発刊。夢二はセノオ楽譜の表紙デザインを 300 以上手掛け、彼自身の作詞も 24 篇含まれている。夢二がデザインした「意欲的な思い切った」図案は人々を魅了した。

『おぼろ月夜』

東京 : 学習研究社, 2004. (私の心の歌 ; 春)　　請求記号●J101-322

CD 付き。収録曲の成立背景に関する解説あり。

●楽譜

「からたちの花」山田耕作作曲 ; 北原白秋詩

東京 : セノオ音楽出版社, 大正 14 [1925]　　請求記号●F2-616

「林雄一郎合唱曲集 」

東京 : 音楽之友社, 1959.　　請求記号●F2-733
男声 4 部合唱 (TTBarB)

「成田爲三名曲集 」

東京 : 玉川大学出版部, 昭和 40 [1965]
解説: 岡本敏明　　請求記号●F3-330

「濱千鳥」鹿島鳴秋作歌 ; 弘田龍太郎作曲

東京 : 東邦音樂書房, 1942 (東邦独唱楽譜 ; 第三番)　　請求記号●F11-477

「濱千鳥 : 少女小曲集」弘田龍太郎作曲 ; 鹿島鳴秋･清水かつら詩 ; 本田庄太郎畫

東京 : 小學新報社, 1921　　請求記号●F11-866

「お山のお猿 : 童謡曲譜集」弘田龍太郎曲 ; 鹿島鳴秋, 清水かつら詩 ; 本田庄太郎画

東京 : 小學新報社, 1921　　請求記号●F12-010

「朝の雪道 : 童謡曲譜集」弘田龍太郎曲 ; 鹿島鳴秋, 清水かつら詩 ; 初山滋畫

東京 : 小學新報社, 1922　　請求記号●F12-011

「童謡小曲. 第二集」中山晋平曲

東京 : 山野樂器店, 大正 11 [1922]　　請求記号●F12-020

「童謡小曲. 第四集」中山晋平曲

東京 : 山野樂器店, 大正 12 [1923]　　請求記号●F12-023

「あの町この町」中山晋平作曲 ; 野口雨情作謡

東京 : 金の星社, 1925 (金の星童謡曲譜 ; 第九輯)　　請求記号●F12-029
装幀: 竹久夢二

「新作童謡. 第十集」本居長世作曲 訂正 5 版

東京 : 敬文館, 大正 13 [1923]　　請求記号●F12-032

「童謡曲集. A」弘田龍太郎 = Kinderlieder. A / Ryutaro Hirota

東京 : 世界名曲文庫刊行會, 昭和 9 [1934] (世界名曲文庫 ; no. 46)　　請求記号●F13-446

「戻ってきた歌 : 混声合唱による日本の愛唱歌」 4 Vol. **青島広志[編]**

東京 : 音楽之友社, 昭和 61-平成 13 [1986-2001]　　請求記号●F15-046

「童謡・小曲選集. 6」弘田龍太郎作曲

東京 : 京文社, 昭和 3 [1928]　　請求記号●F15-988

「中山晋平生誕百年記念歌集」

熱海 : 熱海市, [1987]　　請求記号●F16-099

「あわて床屋」北原白秋作詞 ; [山田耕作作曲]

東京 : 日本交響樂協會出版, 昭和 2 [1927] (童謡百曲集 / 山田耕作 ; 46)　　請求記号●F16-269
非売品。付: 表紙裏に耕作百言(46)

「赤とんぼ」野口雨情作詞 ; [山田耕作作曲]

東京 : 日本交響樂協會出版, 昭和 2 [1927] (童謡百曲集 / 山田耕作作曲 ; 60)
請求記号●F16-282
非売品。付: 表紙裏に耕作百言(60)

「小松耕輔・本居長世・梁田貞・中山晋平」

東京 : 音楽之友社, 1993. (日本歌曲全集 ; 2)　　請求記号●F18-538

「川田正子愛唱童謡曲集. 第五輯, 合唱篇」草川信編曲

東京 : 白眉社, 昭和 22 [1947]　　請求記号●F20-083

「『赤い鳥』童謡. 第六集」草川信, 成田爲三, 弘田龍太郎作曲 ; 西條八十, 北原白秋作詞 ; 鈴木三重吉編 ; 清水七太郎選画

東京 : 赤い鳥社, 大正 11 [1922]　　請求記号●F20-096

「『赤い鳥』童謡 : 復刻 : 全八集」西條八十, 北原白秋, 槇田浜吉作詞 ; 成田為三, 草川信, 弘田龍太郎作曲 ; 清水七太郎挿画選

[東京] : ほるぷ出版, [1969] (復刻赤い鳥の本 別冊 1)　　請求記号●F22-908
「赤い鳥社」 大正 8-14 年刊行全 8 冊の複製

「七つの子 : 本居長世童謡選集」金田一春彦・本居若葉共編

東京 : 如月社, 1987　　請求記号●F24-699
付: 序 ; 本居長世の童謡曲について (P. [2-12]) ; 解説 (P. 151-163) / 金田一春彦

「雨降りお月」野口雨情作詩 ; 中山晋平作曲 ; 松原千加士編曲

東京 : ビクター出版社, 昭和 4 [1929] (ビクターハーモニカ樂譜 ; no. 31)　　請求記号●H22-856

「大石昌美ハーモニカ選集 = Harmonica music selected by Masami Oishi. **童謡・唱歌篇」大石昌美編著**

東京 : 全音楽譜出版社, 2004.　　請求記号●H42-258

「フルート 日本の故郷 : 模範演奏・マイナスワン CD **付属」山本康雄編著**

東京 : トリム楽譜出版, 2009　　請求記号●H46-090

●録音資料

「浅草オペラ : 華ひらく大正浪漫」

[Tokyo] : Yamano Music, p1998　　請求記号●XD40697
茶目子の一日 (上) ～お伽歌劇「茶目子の一日」～収録。歌：平井英子。

●“荒城の月”楽譜諸版

K1 “荒城月”『中學唱歌』 東京音楽学校著

〔東京〕: 東京音楽学校　明治三十五年四月二十日　四刷〔1902.4.24　4 刷〕　共益商社楽器店〔発売〕
[曲譜]三十六　　請求記号●J99-027

当館所蔵、明治三十五年四月二十日四刷の『中學唱歌』の収載楽譜〔曲譜〕三十六、のタイトル

は“荒城の月”と表記されています。一方、明治三十四年三月初版本では、“荒城月”と表記されています。〔K11 参照〕又、四刷でも目次と〔歌詞〕四十五でのタイトルは “荒城月”となっています。〔四刷では、歌詞と曲譜は別頁になっています。〕

〔歌唱用〕旋律のみ、4/4 拍子、ロ短調、8 小節、曲想表示：Andante、第2小節の「花の宴」の「エ」にシャープ〔嬰ホ音〕があり、「チヨノマツガエ」のリズムは「チヨノマ」まで八分音符、「ツ～ガ」は付点八分音符+十六分音符、「エ～」は四分音符となっています。

＊明治 34 年 3 月発行版の「荒城月」の楽譜及び『中學唱歌』〔表紙〕は、Google 等で閲覧できるサイトを発見できます。(2013.9.6 現在)

＊楽譜の標題や目次、歌詞の表記が、いつから「荒城月」から「荒城の月」になったのか？については、二刷、三刷の当該箇所を調べる必要があります。

K2 “荒城の月”『音楽の話と唱歌集 : 上級用』 兼常清佐著

東京 : 興文社 1927 請求記号●C54-816 〔楽譜部分ページ付けなし〕

『中學唱歌』収載楽譜の〔歌唱用〕旋律のみ、4/4 拍子、ロ短調、8 小節、曲想表示：Andante、記譜の仕方、第 2 小節の嬰ホ音、曲想表示、記譜方法(符頭、符尾の方向等)、強弱記号等、ほぼ踏襲しています。

活字は、音符、文字ともに『中學唱歌』収載の楽譜より、丸みを帯びています。紙面の大きさの関係で、『中學唱歌』より楽譜全体も大きく印刷されています。

p.176 に極短い解説(9 行)がありますが、当時の評価や兼常自身の感性等が垣間見え、1927 年当時の発言として、興味深い記事となっています。特に、山田耕筰による編曲版の初版〔1920〕、再版〔1924〕の後なのに、編曲版ではなく、原曲を収載している点も、「荒城の月」の受容状況や兼常の見識を伺わせる、見逃しがたい点となっています。

なお、この本は、後年、『兼常清佐著作集 6 音楽教育』(大空社 2009)として復刻･刊行されています。

K3 “荒城の月”『瀧廉太郎全曲集 : 作品と解説』 小長久子編

東京 : 音楽之友社 昭和 44 [1969] 請求記号●F4-040 他 p. 50

p.50 には、楽譜の上に『中学唱歌〔中學唱歌〕』についての解説が載せられていますが、その後の研究により、特に、〔原曲第 2 小節〕シャープ問題等分かってきた点が大分あります。

K4 “荒城月”『日本の唱歌 ; 決定版 ; 楽曲解説･歌詞発音新案ローマ字表記付き』 藍川由美校訂･編 改訂版

東京 : 音楽之友社 2006 請求記号●F24-626 p. 33

楽曲解説(校訂報告及び資料)p.93 に「…原題は「荒城月」。日本語では人名や地名などを読む場合、慣例として「の」を入れることがあるため、もともと「荒城の月」と発音されていたのを表記するようになっただけかも知れない。」との指摘が見られます。この本では、山田耕作編曲“荒城の月”、本居長世編曲“荒城の月”の楽譜も収載し、p.93 では、この3つの楽譜についての解説があります。

特に、「大正 7 年にセノオ音楽出版社から出た山田耕筰編曲版は、原曲の拍子、音程、リズムを変えて編曲していいため賛否両論があった。それを意識したのかどうか、…瀧の原曲に忠実に和声を付けて『世界音楽全集 第十七巻』〔K7 参照〕…に発表し、…」という興味深い指摘も見られます。

又、“葛”の表記方法(“かつら”“かづら”“かずら”)と実際の歌い方についての指摘も大変参考になります。

K5 『荒城の月 : 獨唱 』 瀧廉太郎原作 ; 山田耕筰改編

東京 : セノオ音樂出版社 大正九年一月廿五日〔1920.1.25〕発行 (セノオ楽譜九十二番/Senow No.92) 請求記号●F15-875

楽譜右上に 瀧廉太郎原作 山田耕筰改編と明記されています。4/4 拍子、ニ短調。左上に Lento, dorolose(マ マ) e Cantabileの曲想表示があります。又、「花の宴」の「え」にシャープがあります。「ちよのまつがえ」のリズム「ち～よ」まで、付点四分音符+八分音符、「のまつが」まで四分音符、「え～」は二分音符です。

この「花の宴」の「え」のシャープに関して、ウィキペディアの「荒城の月」の記事では、「1918 年(大正 7 年)

セノオ音楽出版社から独唱「荒城の月」として出版されたが、これはシャープがついている。また1920年（大正9年）1月25日発行の同社の版でもシャープがついている。」と記されています。又、脚注で、当館所蔵のこの楽譜（セノオ楽譜九十二番）についての書誌記述を確認できます。（2013.9.5 現在）

歌詞に即した荒涼たる風景の表紙画をもつ楽譜です。裏表紙に「山田耕作〔ママ〕氏が渡米に際し、早世の天才、瀧廉太郎氏の霊腕に感じ涙で編んだのが此の曲です。…」のメモがあります。

＊この表紙画の写真が、「竹久夢二「セノオ楽譜」表紙画大全集 / 竹久夢二〔画〕；大平直輝, 西東敬三,加倉井幸子編；竹久みなみ監修」（国書刊行会, 2009）（p.92）に収載されております。又、写真右下に書かれた書誌記述もこの楽譜と合致します。

K6 “荒城の月”『山田耕筰 作品全集 第９巻 独唱曲 5』 後藤暢子編集･校訂

東京 : 春秋社 1993　　請求記号●A10-213 p. 118-119

楽譜の右上に1917年の表示があり、左上にLento doroloso e cantabile ♩＝63の曲想表示と速度表示があります。4/4拍子、ニ短調。「花の宴」の「え」にシャープはありません。「ちよのまつがえ」のリズム「ち～よ」まで、付点四分音符+八分音符、「のまつが」まで四分音符、「え～」は二分音符です。巻末に、資料〔楽譜資料〕〔歌詞資料〕解説文や校註を挙げた、大変充実した校訂報告があります。特に、「…編曲は渡米前の1917年になされた可能性が大きい。…」「…1924年8月に竹久夢二装画で再版されている。…ちなみに、1918年の初版では、第1節1行目の歌詞「花の宴」の歌唱旋律は瀧の原曲どおり半音進行をふくむものであった…だが、再版時にこの♯は削除された。…」（p.38）は大変重要な指摘です。

K7 “荒城の月”『世界音楽全集 第十七巻 日本唱歌集』 本居長世編 [編纂]

東京 : 春秋社 1930　　請求記号●A6-529 他 p. 6

楽譜右上の表示は、本居長世編曲となっています。単旋律伴奏付、4/4 拍子、ロ短調、16 小節、曲想表示：Andante、「花の宴」の〔エ〕にシャープがあります。「チヨノマツガエ」のリズムは「チヨノマ」まで四分音符、「ツ～ガ」は付点四分音符+八分音符、「エ～」は二分音符となっています。楽譜は2 番の歌詞までですが、歌詞及び解説（p.231）に〔四番〕までの歌詞が載り、「あまりにも人口に膾炙した此曲、本全集に於ても獨唱曲集に合唱曲集に多くの人によりて種々なる型に於て取扱はれたので採録を幾度か躊躇したが…新伴奏を附して載せることとした。…」との解説が付いています。

K8 “荒城の月”『新女子音楽教科書. 第３編』 若狭萬次郎編 修正再版

東京 : 共益商社書店, 1934　　請求記号●C15-979 p. 43-44

〔女声三部〕、〔無伴奏〕、4/4 拍子、曲想表示：Andante、「花の宴」の〔エ〕にシャープがあります。「チヨノマツガエ」のリズムは「チヨノマ」まで四分音符、「ツ～ガ」は付点四分音符+八分音符、「エ～」は二分音符となっています。楽譜右上に“Taki-Wakasa”の記述があります。

（『新女子音楽教科書. 第2編』 若狭萬次郎編著 東京 : 共益商社書店, 1932［コガラシ］ 請求記号●C45-947 p.43 に〔女声二部〕“荒城の月”が収載されています。（B19 参照））

K9 “荒城の月”『音樂 : 中等學校男子用. 2』 中等學校教科書株式会社著

東京 : 中等学校教科書, 1944　　請求記号●C15-493 他 p. 38-39

楽譜左上に♪＝80とあります。歌唱部分8小節の他に前奏2小節、後奏2小節が加わり、計12小節で書かれています。4/4 拍子、ロ短調、「花の宴」の〔エ〕にシャープがあります。「チヨノマツガエ」のリズムは「チヨノマ」まで八分音符、「ツ～ガ」は付点八分音符+十六分音符、「エ～」は四分音符となっています。「附録 歌曲作者一覧（p.116）」に、「荒城の月 （中學唱歌） 弘田龍太郎編曲」と記述されています。

K10 “荒城の月”『新しい小学音楽. 6 年』 柴田知常,平井康三郎編

東京 : 東京書籍, 1956　　請求記号●C15-497 p. 52-53

楽譜左上に♩＝76とあります。4/4拍子、「単旋律」伴奏付、ロ短調、16小節。ブレス記号があります。「花の宴」の「え」にシャープはありません。「ちよのまつがえ」のリズム「ち～よ」まで、付点四分音符+八分音符、「のまつが」まで四分音符、「え～」は二分音符です。編曲者名は明記されていません。

K11 “「荒城月」”『瀧廉太郎 : 資料集 / 大分県教育庁文化課編』（大分県先哲叢書）

〔大分〕: 大分県教育委員会. 1994　　請求記号●C58-651 他 p. 43

大分の生んだ代表的な先哲の一人としてとりあげられた瀧廉太郎の資料集。音楽作品〔自筆譜・初版譜写真等〕・音楽作品目録・演奏会・書簡・写真・関連資料・遺品・周辺資料の八篇で構成されています。

展示箇所は、『中學唱歌』(東京音楽学校蔵版、共益商社楽器店、明治 34 年 3 月) 所収の「荒城月」です。当館所蔵の第四刷 (参照 K1) とは、頁付け等が異なっています。

「荒城月」の他にも「花」、「箱根八里」、幼稚園唱歌等、唱歌研究にとって重要な資料が多数収載されています。

K12 “第三章 新しい歌の創造 四 荒城の月 「荒城の月」” 『滝廉太郎』 松本正著 ; 大分県立先哲史料館編 シリーズ 大分県先哲叢書

〔大分〕 : 大分県教育委員会, 1995 請求記号●C59-910 p. 168-169

『瀧廉太郎 資料集』を踏まえて作成された、瀧廉太郎に関する本格的伝記。展示箇所以降、前段の“『中學唱歌』”を受けた形で、中学唱歌披露演奏会の様子を伝える記述とともに、当時の『讀賣新聞』『日本美術』の記事が収載されており、唱歌受容史にとっても貴重な記録が提供されています。特に、「…大正六年に発行された『中學唱歌』にはまだシャープがある。大正七年の山田耕筰の初版本にも付されているが、同十三年発行の楽譜では消えてしまっている。 このホ音に付されたシャープは、『中學唱歌』初版の出版時から問題となっている。」(p.171) は大変重要な指摘です。

●唱歌教材等に収載された“菩提樹”

B1 「菩提樹」『音樂界 復刻版』

第 2 巻第 5 号 明治 42 年 5 月号 請求記号●P724 2 p. 6-1

楽譜の他に、「菩提樹 近藤逸五郎〔日本語訳〕」「歌曲『菩提樹』解説」を収載 (p.35)。
楽譜の歌詞冒頭句は「ナガレニソヒテシゲルボダイジュ」となっていますが、「菩提樹 近藤逸五郎」の冒頭句は「泉にそひて繁る菩提樹」となっています。[単旋律]伴奏付です。

B2 「菩提樹」『大正女学唱歌』 天谷秀著 訂正再版

東京 : 金港堂書籍, 1917 請求記号●C15-853 [頁] 四二-四三

[頁] 四二の歌詞頁には、近藤朔風作歌と記されています。楽譜の歌詞冒頭句は「イヅミニソヒテシゲルボダイジュ」となっています。[単旋律][無伴奏]です。

B3 「菩提樹の歌= Der Lindenbaum : Winterrreise : op. 89, no. 5 / F. Schubert ; Wilhelm Müller 」 ウイルヘルム・ミューラー詩 ; フランツ・シューベルト作曲 ; 妹尾幸陽譯詞

東京 : セノオ音樂出版社, 大正 8 [1919] 請求記号●F15-876

楽譜の表紙画は、竹久夢二によるもの (セノオ楽譜一二四/Senow No.124) です。裏表紙に[歌曲解説]があり、(幸陽生) の署名があります。楽譜の日本語歌詞冒頭句は、「かどのいづみにたてるぼだいじゅ」です。日本語歌詞の下に、原詩 (ドイツ語) があります。[単旋律]伴奏付です。

B4 「The linden tree. [菩提樹]」『中等教育英語唱歌集. 第 7 輯』 常深千里編

〔兵庫県〕 : 日英楽社, 1921 請求記号●C58-432 p. 24-25

楽譜部分は英語歌詞のみですが、p.25 の下段に常深千里譯歌と記した日本語歌詞があり、(本歌詞は直ちに曲に配して歌ふを得) と書かれています。譯歌冒頭句は「かどの泉に立てる大木」です。[四部][無伴奏]で書かれています。

B5 「ゆかしの光 (菩提樹) Der Lindenbaum」『特撰著名合唱曲集』 中田章校閲

東京 : 新響社, 大正 10 [1921] 請求記号●F2-350 他 p. 26-28

歌詞頁 (p.28) には、林古渓作歌とあります。上段に原詩 (ドイツ語) がありますが、1.2.までで、“hier find’st du deine Ruh”で終わっています。楽譜は、上にドイツ詩を置き、下に日本語歌詞を配しています。日本語歌詞冒頭句は 「きよきつきかげむねにしみて」です。冒頭句から、原詩とは全く違う内容となっています。[三部][無伴奏]で書かれています。

B6 「友懐ふ宵」『鑑賞に立脚せる唱歌集』　中川安一編

大竹町 (広島県) : 渡辺商店出版部, 1924　　請求記号●C15-989　No.297-298

歌詞冒頭句は、「オモヒイヅルハツキテルヨヒ」となっています。日本語歌詞の作詞者は明記されていません。[三部][無伴奏]で書かれています。

B7 「春は来れり」『單聲合唱曲集』　井上武士編

東京 : 共益商社書店, 大正 13 [1924]　　請求記号●F16-922　p. 25-26

歌詞頁 (p.26) に、井上武士作歌とあります。歌詞冒頭句は「カドベノヤナギモエイデテ」です。「三部合唱之部」に収載されています。[女声三部/男声三部][無伴奏]です。

B8 「科の木 [シナノキ] (Der Lindenbaum) : 單聲三部合唱曲 」　シューベルト原作 ; 大塚淳編曲

東京 : 共益商社, [1928]　　請求記号●F11-211

歌詞冒頭句は、「イヅミノホトリタテルシナノキ」、訳詞者は飯田忠純で、[同声三部合唱]伴奏付です。

B9 「菩提樹」『兼常清佐著作集 第 6 巻 「音楽の話と唱歌集 : 上級用」』　兼常清佐著 ; 蒲生美津子,土田英三郎,川上央編

東京 : 大空社, 2009 〔原本は、1927 年、興文社刊です。〕
請求記号●J114-907 〔楽譜には頁付がありません。〕

歌詞冒頭句は、「いずみのほとりぼだいじゅのかげ」。楽曲の解説　六 (p.183-188) に「菩提樹」の解説がありますが、「私が、こゝにシューベルトの「菩提樹」に日本語の譯をつけた…」(p.187) との記述等から、この日本語歌詞の作者は兼常清佐と推測できます。なお、この記述の直前で、翻訳や翻訳で歌うことの難しさ、問題等が指摘されています。[単旋律]伴奏付です。

B10 「菩提樹 Der Lindenbaum」『シューベルト歌曲選集. 第一編』　石倉小三郎譯歌

東京 : 共益商社書店, 昭和 4 [1929]　　請求記号●F24-009　p. 1-5

原詩 (ドイツ語) の下に、日本語歌詞が配されます。歌詞冒頭句は、「いづみのほとりみどりしげき」です。タイトルページに、石倉小三郎譯歌と書かれています。[単旋律]伴奏付です。

B11 「吉野懐古」『検定唱歌集伴奏書 : 高等科用』　田村虎蔵編

東京 : 松邑三松堂, 1929　　請求記号●C15-855　p. 130 (其　一)　p. 131 (其　二)

(其　一) (其　二) とも、[単旋律]伴奏付ですが、伴奏形は違っています。歌詞冒頭句は、(其　一) (其　二) とも、「ハナニカクレシヨロイスガタ」です。(一番の歌詞は、B12 に一致しています。) 歌詞の作者名は、『検定唱歌集伴奏書 : 高等科用 / 田村虎蔵編』には明記されていません。

B12 「吉野懐古」『滋賀県小学唱歌. 高等科第 1 学年 / 滋賀県教育会編纂』

東京 : 京文社, 1930　　請求記号●C38-881　p. 25 (ママ)

歌詞冒頭句は「ハナニカクレシヨロヒスガタ」、楽譜右上に杉谷代水歌とあります。[単旋律][無伴奏]です。

B13 「木蔭に立ちて」『女学唱歌読本. 4 / 福井直秋編』 訂正再版

東京 : 共益商社書店, 1929　　請求記号●C15-995　p. 34-35

作詞は、守随憲治で、歌詞冒頭句は「ミドリシタタルモリノコカゲ」で、[女声三部][無伴奏]です。

B14 「Der Lindenbaum 菩提樹」『世界音楽全集 第 6 巻 世界獨唱曲集』 門馬直衛編

東京 : 春秋社, 1929　　請求記号●A6-507 他　p. 46-49

原詩 (ドイツ語) の下に、日本語歌詞が配されています。歌詞冒頭句は、「いづみのほとりたつぼだいじゅ」です。『世界音楽全集　第 6 巻　世界獨唱曲集』には、日本語歌詞の作詞者名としての明記はありません。[単旋律]伴奏付です。

〔『世界音楽全集　第 52 巻』(p.163) 収載「同声三声部　菩提樹」の楽譜右上に門馬直衛譯編と書かれており、歌詞冒頭句が一致します。門馬直衛譯が推定される楽譜としては、これらの他に『世界音楽全集　第 79 巻』があります。〕

B15 「學び終へし喜び」『最新小学唱歌名曲全集. 1』 小学唱歌教授同好会編 改訂増補

東京 : 小学唱歌教授同好会, 1930　　請求記号●C16-007　p. 288

歌詞冒頭句は、「マナビノマドノユキホタル」です。作詞者名の明記はありません。[単旋律][無伴

奏]です。

B16 「門の椎の木」『最新女子音楽教科書. 3』　北村季晴編

大阪 : 日本唱歌出版社, 1931　　請求記号●C15-973　p. 44-45

歌詞頁 (p.45) に、吉丸一昌 とあります。歌詞冒頭句は、「コカゲニヨリシナツノユフベ」 で、[女声二部][無伴奏]です。

B17 「巨木を讃ふ」『新制女子音楽教科書. 第 4 巻』　成田為三編

東京 : 六星館, 1932　　請求記号●C15-391 p. 48-49

歌詞頁 (p.49) に、菊池知勇 とあります。歌詞冒頭句は「ミヨアメヲヨブスギノキヲ」で、[単旋律][無伴奏]です。

B18 「菩提樹」『標準男子音楽教科書. 初級用　3』　小川一朗,黒沢隆朝共編 修正再版

東京 : 共益商社書店, 1932　　請求記号●C15-993 他　p. 2-3

歌詞部 (p.3 下段) に、藤村俊 とあります。歌詞冒頭句は「カドベニタカクタテルボダイジュ」で、[単旋律][無伴奏]です。

B19 「木枯」『新女子音楽教科書. 第 2 編』　若狭萬次郎編著

東京 : 共益商社書店, 1932 [コガラシ]　　請求記号●C45-947　p. 64-65

歌詞頁 (p.65) に、友近季一 とあります。歌詞冒頭句は 「コガラシサムクトキヲツクリ」で、[単旋律][無伴奏]です。

B20 「祈り」『中学校唱歌教科書. 3』　橋本茂編纂 訂正

東京 : 高井楽器店出版部, 1933　　請求記号●C45-964　p. 21-22

歌詞部 (p.22 下段) に、前田勇 とあります。歌詞冒頭句は「ウツシミアゲテタラチネハ」で、[単旋律][無伴奏]です。

B21 「菩提樹」『音樂 : 中等學校男子用. 2』　中等學校教科書株式会社著

東京 : 中等学校教科書, 1944　　請求記号●C45-956 他　p. 28-31

附録頁 (p.116) に、石倉小三郎作歌、黒澤隆朝編曲と書かれています。歌詞冒頭句は「イヅミノホトリミドリシゲキ」で、〔男声二部〕伴奏付です。

B22 「菩提樹」『音楽 : 中等学校女子用. 2』　中等学校教科書株式会社著

東京 : 中等学校教科書, 1944　　請求記号●C45-958　p. 34-37

附録頁(p.121)に、石倉小三郎作歌、黒澤隆朝編曲と書かれています。歌詞冒頭句は「イヅミノホトリミドリシゲキ」で、〔女声三部〕伴奏付です。

B23 「ぼだい樹」『世界の民謡』　服部龍太郎著

東京 : 音楽之友社, 1956　　請求記号●C24-416 他　p. 31

楽譜右上に、服部龍太郎、大木惇夫作詞と記載されています。その下の記述は、シューベルト原曲、ドイツ民謡となっています。歌詞冒頭句は「いづみすずしくしげるぼだいじゅ」で、〔二部〕伴奏付です。

●貴重書

1 『幼稚園唱歌集』 文部省音楽取調掛編輯

東京 : 文部省編輯局, 明治 20 年(1887)12 月　　請求記号●S60-190(M5-440)

幼児にも歌えるようにと、二十九の唱歌を収めたが、歌詞は文語体、教訓的であった。
収載唱歌としては、「蝶々」「霞か雲か」「うづまく水　後キラキラ星」「蜜蜂　後ぶんぶんぶん」「数へ歌 〔ヒトツトヤヒトビトヒトヒモワスルナヨワスルナヨハグクミソダテシオヤノオンオヤノオン〕)」等がある。

2 『小學唱歌教授法』 ジョージ･ルーミス[Loomis, George Brace]原著 東儀季治譯述 上真行校閲

東京 : 共益商社書店;中央堂、明治 22 年(1889)10 月　　請求記号●S60-199(M5-440)

3 『音楽之枝折 續編』 大村芳樹著述

東京 : 高等師範學校附属音樂學校, 明治 22 年－明治 14 年版の第 4 板
請求記号●S60-204(M5-440)

音楽学習指導の一種の啓蒙書と言える。唱歌科の、目標･内容･方法･手段等が散見される。著者は東京師範学校出身者、メーソンの薫陶を受けたと言われている。

4 『小學唱歌集 初編』 文部省音樂取調掛

東京 : 高等師範學校附属音樂學校, 明治 22 年－明治 14 年版の第 4 板　請求記号●S60-205(M5-440)

明治 14 年 11 月初版発行　奥付は明治 22 年であるが、次ページに祝日大祭日唱歌重音譜」(明治 33 年)の宣伝が掲載されている事から、実際の出版は明治 33 年以降
『小學唱歌集』(初編、第二編、第三編) は、文部省音樂取調掛によって編集された日本での初めての官製、西洋式楽譜の唱歌集と言われ、メーソンや伊澤修二が中心になって作成したとも言われている。

5 『小學唱歌集 初編』 文部省音樂取調掛

東京 : 高等師範學校附属音樂學校, 明治 22 年－4 板　請求記号●S60-206(M5-440)

明治 14 年 11 月初版発行　奥付は明治 22 年であるが、次ページに祝日大祭日唱歌重音譜」(明治 33 年)の宣伝が掲載されている事から、実際の出版は明治 33 年以降
「見わたせば　後むすんでひらいて」「蝶々」「蛍　のち蛍の光」等収載

6 『小學唱歌集 第二編』 文部省音樂取調掛

東京 : 高等師範學校附属音樂學校, 明治 18 年(1885)5 月－再版　請求記号●S60-207(M5-440)

明治 16 年 3 月初版発行　奥付は明治 18 年の刊記を持つが、次ページに箏曲集(明治 21 年 10 月) の宣伝が載せられていることから、実際の出版年は明治 21 年以降
「霞か雲か」等収載

7 『小學唱歌集 第三編』 文部省音樂取調掛

東京 : 高等師範學校附属音樂學校, 明治 18 年 5 月 (1885) －再版　請求記号●S60-208(M5-440)

明治 17 年 3 月初版発行　奥付は明治 18 年の刊記を持つが、次ページに箏曲集(明治 21 年 10 月) の宣伝が載せられていることから、実際の出版年は明治 21 年以降「あふげば尊し」「才女」「菊　のち庭の千草」等収載

8 『幼稚園唱歌集』 文部省音楽取調掛

東京 : 文部省編輯局, 明治 28 年(1887)10 月以降－明治 20 年版の再版　請求記号●S60-209(M5-440)

巻末に「大東軍歌」(明治 28 年 10 月出版) の宣伝あり。したがって出版年はこれ以降
幼児にも歌えるようにと、二十九の唱歌を収めたが、歌詞は文語体、教訓的であった。
収載唱歌としては、「蝶々」「霞か雲か」「うづまく水　後キラキラ星」「蜜蜂　後ぶんぶんぶん」「数へ歌 〔ヒトツトヤヒトビトヒトヒモワスルナヨワスルナヨハグクミソダテシオヤノオンオヤノオン〕) 」等がある。

9 『小學唱歌 巻之三』 伊澤修二編纂

東京 : 大日本圖書, 明治 27 年(1894)1 月－訂正版　請求記号●S60-210(M5-440)

明治 26 年 8 月初版

『小學唱歌』(全六冊) は、音楽学校をやめた伊澤修二が民間人として編纂し、全冊文部省検定済としている。伊澤自身の曲や歌詞の補修等も目立つが、当時の新進音楽家の新作や「わらべ歌」の多くの採用にその特徴があると言われている。

10 『小學唱歌 巻之五』 伊澤修二編纂

東京 : 大日本圖書, 明治 27 年(1894)1 月－訂正版　請求記号●S60-211(M5-440)

明治 26 年 9 月初版

11 『小學唱歌 巻之六』 伊澤修二編纂

東京 : 第日本圖書, 明治 27 年(1894)1 月－訂正版　請求記号●S60-212(M5-440)

12 『保育並遊戯唱歌の撰譜』 芝祐泰編

昭和三十年十二月廿六日昭和 30 年(1955)12 月　請求記号●S60-436(M5-447)

編者の芝祐泰(すけひろ)氏は宮内庁楽部楽長、本学教授を歴任された雅楽･理論研究の第一人者で「五

線譜による雅楽総譜」「雅楽通解」他の著作があります。なお、この『保育並遊戯唱歌の撰譜』は、『保育並遊戯唱歌　資料』『保育並ニ遊戯唱歌譜　前』『保育並ニ遊戯唱歌譜　後』『保育並遊戯唱歌　歌詞』『保育並ニ遊戯唱歌譜　現代的五線譜（13 参照）』とともに、『音楽基礎研究文献集 第 15 巻「保育並遊戯唱歌の撰譜」』芝祐泰〔編〕;江崎公子編（大空社，1991）に収載され復刻・刊行されており、更に、『音楽基礎研究文献集　別巻　解説』江崎公子編（大空社，1991）p 153-162 の藤田芙美子「『保育並遊戯唱歌の撰譜』「洋楽の作曲」を先駆けた明治の雅楽家たち」には、『保育並遊戯唱歌の撰譜』、『保育唱歌　五線譜』巻一（14 参照）、巻ニ（15 参照）、『保育並（ママ）遊戯唱歌　現代的五線譜』他の成立事情や、「保育唱歌」についての解説が詳しくなされています。

13『保育並ニ遊戯唱歌 現代的五線譜』 芝祐泰編

昭和三十三年十二月八日昭和 33 年(1958)12 月　　請求記号●S60-438(M5-447)

「保育並ニ遊戯唱歌」の原本や写本は雅楽の知識がないと理解することも困難ですが、この現代的五線譜を見ることにより、そうした資料群の理解も深められるものと思われます。なお、今回展示する箇所は、「君ヵ代」林　廣守撰譜を含む頁といたしました。

14『保育唱歌 五線譜 巻一』 芝祐泰編

昭和三十年十月十六日昭和 30 年(1955)10 月　　請求記号●S60-439(M5-447)

『保育並ニ遊戯唱歌　現代的五線譜』成立の3年前、昭和三十年の十月十六日の日付がタイトル頁に見られます。今回展示する箇所は、「君ケ代」林　廣守撰譜を含む頁といたしました。

15『保育唱歌 五線譜 巻ニ』 芝祐泰編

昭和三十年十月二十一日昭和 30 年(1955)10 月　　請求記号●S60-440(M5-447)

『保育唱歌　五線譜　巻ニ』の成立は、『保育唱歌　五線譜　巻一』の成立直後の昭和三十年十月二十一日の日付がタイトル頁に見られます。今回展示する箇所は、巻二最終頁、「ウミユカバ」東儀季芳撰譜を含む頁といたしました。

16『唱歌集』

東京 : 明治 24 年(1891)　　請求記号●S60-445(M5-448)

17『帝國唱歌 上巻』 大和田建樹

東京 : 博文館, 明治 25 年(1892)6 月　　請求記号●S60-446(M5-448)

春の歌　如意輪堂　月と我と　ゆげの水　ほたるほたる　ほか全 25 曲

18『帝國唱歌 下巻』 大和田建樹

東京 : 博文館, 明治 25 年(1892)7 月　　請求記号●S60-447(M5-448)

三種の神器　夢　和気清麿　自然の音楽　忍耐ほか全 25 曲

19『教育唱歌圖解』 永島幾暁筆

東京 : 森本順三郎, 明治 26 年(1893)3 月　　請求記号●S60-448(M5-448)

20『中等唱歌集』 東京音樂学校

東京 : 高等師範學校附属音樂学校, 明治 22 年(1889)12 月　　請求記号●S60-452(M5-448)

大日本圖書発行

『埴生の宿』（原曲 "Home, sweet home"）等　尋常中学校生の教材　第一曲　君が代

21『音樂指南』 文部省

東京 : 文部省, 明治 17 年(1884)4 月　　請求記号●S60-444(M5-448)

●AV 資料室掲示板

「ゆりかごの歌 : 童謡･唱歌集 / 鮫島有美子」

演奏者 鮫島有美子, ソプラノ ; 室内管弦楽団 ; 南安雄, 指揮.
[Tokyo] : Denon, 1989　　請求記号●XD8513

「西條八十全集. 1」

[東京] : 日本コロムビア, 1992　　請求記号●XD20428

「瀧廉太郎作品集」

三浦洋一, ピアノ, オルガン (第 2 曲「雪」のみ).
Tokyo : Victor, 1993　　請求記号●XD23119

"瀧廉太郎没後 90 周年特別企画"

「故郷 (ふるさと) : 文部省唱歌集 / 藍川由美」

藍川由美, ソプラノ ; 花岡千春(第 1-2, 8-9, 17-19, 23-26 曲) 高須亜紀子(第 3-7, 10-16, 20-22 曲),ピアノ.
Tokyo : Camerata, p1996　　請求記号●XD36427

"原則として初出のピアノ伴奏譜を用い, 現行の教科書ではカットされている歌詞も全篇収録することにした"--解説

「弘田龍太郎･杉山長谷夫･成田為三･藤井清水作品集」

中沢桂 (第 8-12, 16-18 曲), 伊藤京子 (第 13-14 曲), ソプラノ ; 木村宏子, メゾ･ソプラノ (第 1-7 曲) ; 立川清登, バリトン (第 15 曲) ; 三浦洋一, ピアノ.
Tokyo : Victor, 1991 (日本歌曲全集 ; CD 7)　　請求記号●XD39500

「日本人が創った最初の唱歌」

Tokyo : Victor, 2000 (原典による近代唱歌集成 : 誕生･変遷･伝播 ; CD 8)　　請求記号●XD43833

1890 年から 1900 年ごろの日本人作曲の作品。リード･オルガンまたはピアノ伴奏による斉唱, 独唱, 合唱。"学校唱歌―教室で歌った新しい歌"

「童謡の誕生」

Tokyo : Victor, 2000 (原典による近代唱歌集成 : 誕生･変遷･伝播 ; CD 19)　　請求記号●XD43844

全曲斉唱または独唱による演奏。 "国民唱歌―学生歌･はやり歌･軍歌"

「ほんとうの唱歌史 :「海ゆかば」: 保育唱歌から国民唱歌まで」

藍川由美, ソプラノ ; 安宅薫, ピアノ
[Tokyo] : Camerata, 2007　　請求記号●XD60555

「ふじの山 ; 夕焼小焼」

ももたらう (鶴岡恵, ソプラノ, 吉野真紀子, アルト, 望月寛之, テノール).
Tokyo : Beltà, 2008　　請求記号●XD61738

混声ア･カペラ三重唱

「唱歌になった世界の歌 大正･昭和. 1」

[Tokyo] : Dreamlife : 発売･販売: ニホンモニター, 2008　　請求記号●XD62542

「尋常小学唱歌 : 足踏みオルガンの思ひ出 : ベスト」

ひまわりキッズ, 歌 ; 佐藤泰平, リードオルガン
Tokyo : King, 2009　　請求記号●XD63446

「秋田が生んだ音, 音楽 : 先人の音の遺産を辿る」

[秋田] : 秋田大学教育文化学部, [2011/2012]　　請求記号●XD67514
秋田大学教育文化学部 〈秋田学･白神学研究会〉 〈郷土の音楽素材ライブラリー〉
録音: 2011 年 9 月 3 日, 秋田大学六十周年記念ホール
＊同内容 DVD：VE3290

表紙画像

出典：『赤い鳥』大正 8 年 4 月号 CD-ROM 版 東京 : 大空社, 2008.　請求記号●P0751

●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)
http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm

2013/10/1 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 撰正弘･田村和子